

第1章 盛岡都市圏の現状

1. 地勢等の現況

(1) 地勢・地理

盛岡市、滝沢市、矢巾町の3市町（以下「盛岡都市圏」という。）の地勢及び地理については、次のとおりです。

■ 盛岡市

盛岡市は、岩手県の中央部北寄りに位置する岩手県の県庁所在地です。市域は東西 45.6km、南北 40.7km、面積は 886.47km² で、市域の東側は宮古市、岩泉町、西側は雫石町、滝沢市、南側は矢巾町、紫波町、花巻市、北側は八幡平市、岩手町、葛巻町と接しています。

盛岡市の地形は、北部と東部が山地及び丘陵地となっており、平地が南に開け、雫石川、中津川等の河川が中心市街地付近で北上川に合流しています。市域の北西部は、岩手山の噴火により形成された火山性の山地と丘陵地が広がっています。また、北部から東部にかけては北上高地に連なる小起伏山地、中起伏山地が広がるほか、南西部には山地と火山性の扇状地が見られます。一方、市街地とその南側については、北上川、雫石川及び中津川等の河川が運んできた砂礫によって形成された扇状地性の低地や、砂礫台地及び河岸段丘上に立地しています。

■ 滝沢市

滝沢市は、盛岡市の北西部に位置し、行政区域の規模は、東西約 14km、南北約 20km、面積 182.46km² となっています。

北西部に秀峰岩手山（2,038m）を抱き、諸葛川、木賊川や巣子川など複数の河川があります。

滝沢市の地帯を高度別に概観すると、標高 600m 以上の岩手山主体部地帯と、その東南に展開する標高 200m から 600m までの山麓地帯、及び北上川流域平野の西縁部に座を占める、標高 200m 以下の緩傾斜地帯、並びに平坦部地帯です。西北部の山麓地帯の畑作酪農の農村部と、東南部の 200m 以下の高度帯の第三紀山麓緩傾斜並びに沖積地帯に区分されます。このように対照的な土地条件を基盤にして、前者は畑作酪農、後者は水田果樹栽培の郊村的色彩の強い地域となっています。

■ 矢巾町

矢巾町は、岩手県中央部に位置し、盛岡市の南に隣接する、面積が 67.32km² の、のどかな山と田園風景が広がる里と人が共存するコンパクトな町です。矢巾町の西部には標高 848m の南昌山がそびえ、東部には日本有数の河川である北上川が流れています。中央部は平坦地であり、稲作に適した自然条件をそなえる県央の優良農地が広がる田園地帯となっています。

標高 400m 以上の地帯は丘陵地として起伏が大きく、主として火山層となっています。しかし、南部と東南部の一部は石英粗面岩によって構成され、東南縁はほとんど第三紀系凝灰質砂岩あるいは砂質下位頁岩を基盤に上層は新規堆積物の火山放出層の成層が存しています。この新規堆積物の生成時期は長期にわたっており、ローム質上又は粘土状であり、一般的に保水性に富み軟弱です。

(2) 土地利用

①盛岡広域都市計画区域

盛岡広域都市計画区域の範囲、規模は次のとおりです。

表 1-1 盛岡広域都市計画区域の範囲・面積

名称	市町	範囲	面積(ha)	行政区域(ha)
盛岡広域 都市計画区域	盛岡市	行政区域の一部	44,570	88,647
	滝沢市	//	6,470	18,232
	矢巾町	//	5,720	6,728
	計		56,760	113,607

資料：岩手県県土整備部都市計画課「岩手県の都市計画－資料編－」（令和5年（2023年）3月31日時点）

本区域は、長い歴史を持ち、多くの先人が築き上げてきた伝統や文化、豊かな自然と調和させながら、岩手県の中心として行政機関や高度医療施設、教育施設、文化施設、商業施設など多くの都市機能を集積して発展してきました。また、東北新幹線、東北自動車道といった高速交通基盤が整備され、沿岸部や秋田県とを結ぶ交通結節点となっていることから、東北における拠点機能を担う都市としての役割も持っています。

しかし、本区域内において、交通渋滞の発生や幹線道路の不足など都市基盤の整備はまだ十分ではなく、円滑な都市活動に支障をきたしている状況も見られます。



図 1-1 盛岡広域都市計画区域の将来像

資料：岩手県「盛岡広域都市計画区域マスタープラン」(令和4年(2022年)3月)

②盛岡市立地適正化計画

盛岡市では、将来的な人口減少、少子高齢化を見据え、住宅や医療、福祉、商業施設等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを目指し、令和2年（2020年）3月に盛岡市立地適正化計画を策定しています。

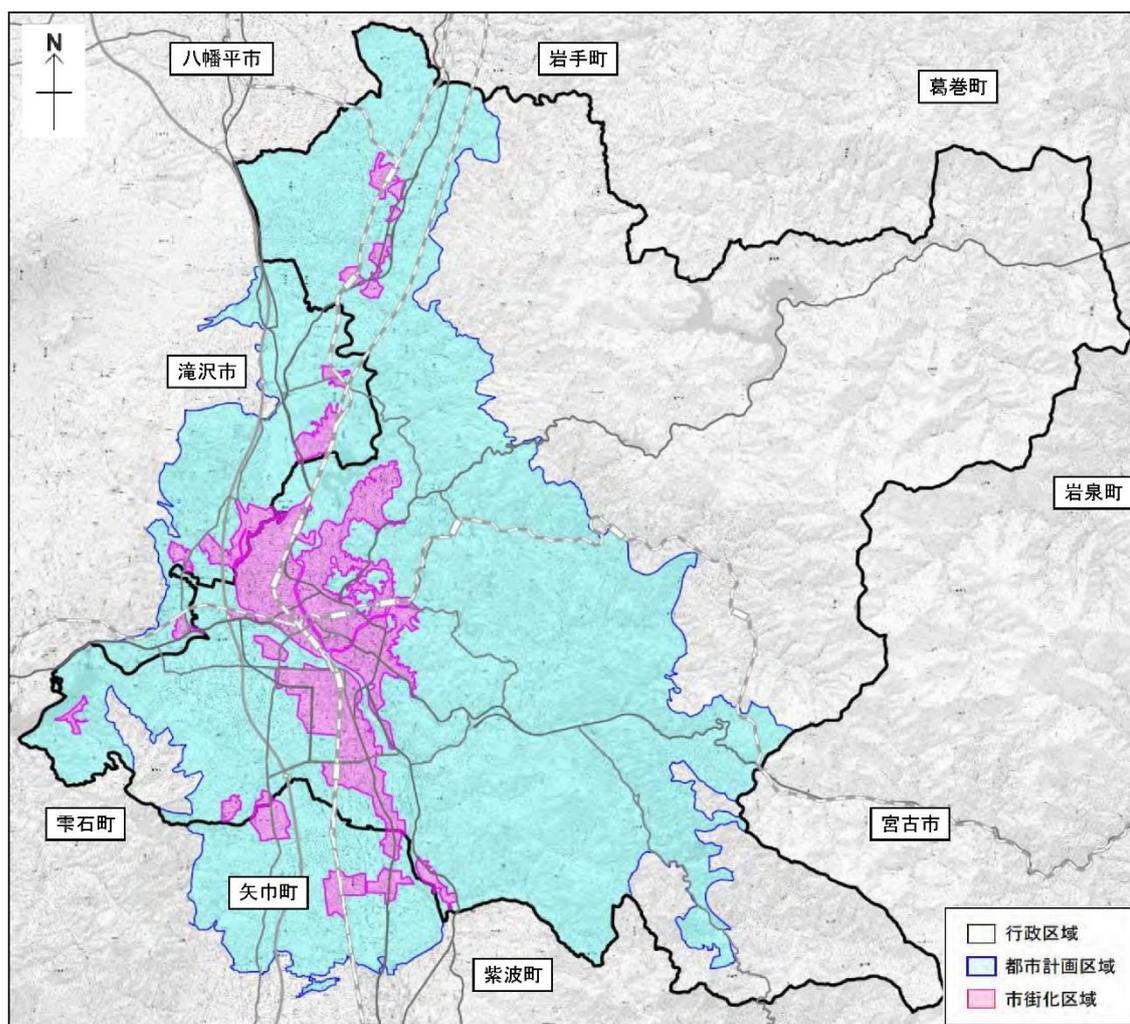


図 1-2 盛岡市立地適正化計画対象区域

※市街化区域：令和7年（2025年）3月末時点

盛岡市立地適正化計画の対象区域は、都市再生特別措置法第81条第1項の規定に基づき、盛岡市の都市計画区域となっています。

表 1-2 盛岡市立地適正化計画の対象区域の面積

行政区域面積	名称	都市計画区域面積	市街化区域面積	市街化調整区域面積
盛岡市 88,647ha	盛岡広域 都市計画区域	44,570ha	5,230ha	39,340ha

資料：盛岡市「盛岡市立地適正化計画」

（令和2年（2020年）3月策定、令和5年（2023年）3月第2回変更）

2. 人口推移

盛岡市の人口は減少傾向にあり、令和2年（2020年）から令和27年（2045年）までに約52千人の減少が予測されています。

同様に、滝沢市では約9千人、矢巾町では約4千人の減少が予測されています。

合計人口も減少しており、令和27年（2045年）までに約65千人の減少が予測されています。

表 1-3 盛岡都市圏の人口

市町名	現在の人口(人)		将来推計人口(人)					
	平成27年 2015年	令和2年 2020年	令和7年 2025年	令和12年 2030年	令和17年 2035年	令和22年 2040年	令和27年 2045年	令和32年 2050年
盛岡市	297,631	289,731	282,066	272,642	262,205	250,661	238,224	225,333
滝沢市	55,463	55,579	54,966	53,545	51,656	49,339	46,776	44,032
矢巾町	27,678	28,056	27,541	26,771	25,897	24,847	23,598	22,283
合計	380,772	373,366	364,573	352,958	339,758	324,847	308,598	291,648

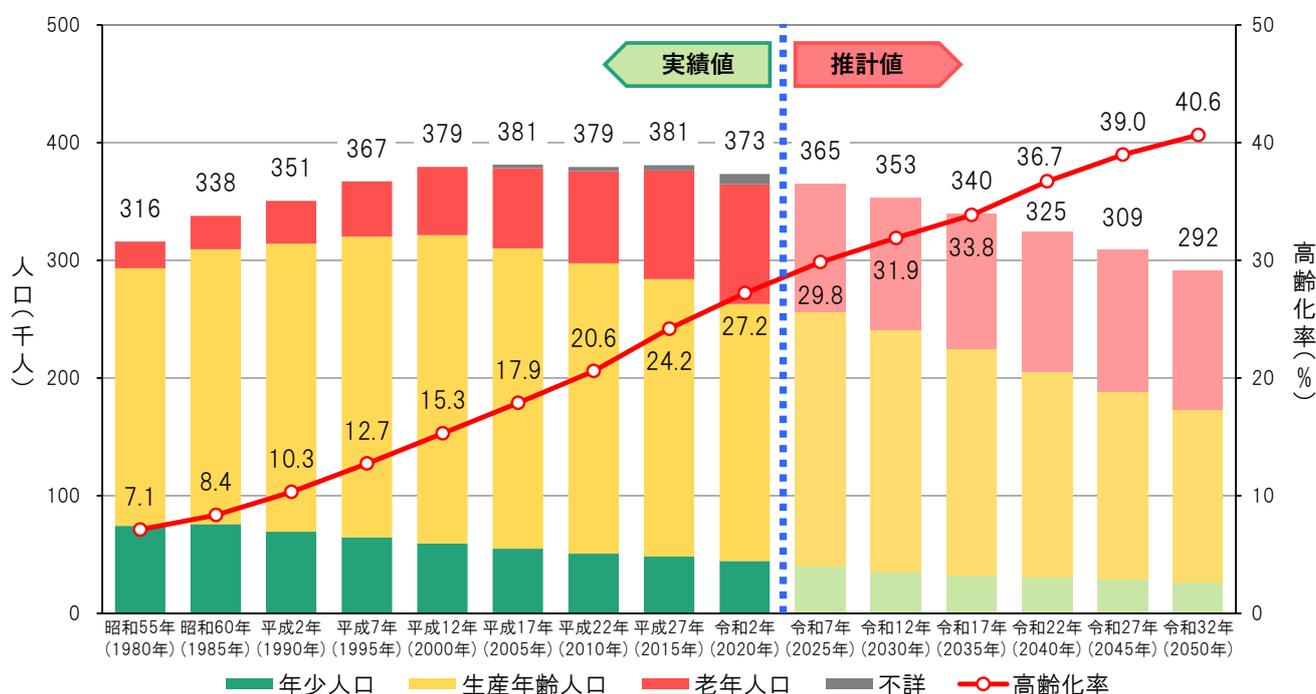


図 1-3 盛岡都市圏の人口の推移

資料：「現在の人口」 総務省「国勢調査」(各年10月1日時点)

「将来推計人口」 国立社会保障・人口問題研究所-男女・年齢(5歳)階級別データ『日本の地域別将来推計人口』(令和5年(2023年)推計)

3. 移動の状況

①運転免許・自動車保有状況

3市町の運転免許保有者数は、平成30年（2018年）から令和5年（2023年）まで横ばいで推移しています。人口減少や高齢化の推移と比較すると、運転免許保有者数の変化は少ないと言えます。

表 1-4 盛岡都市圏の運転免許保有者数

市町名	平成30年 2018年	令和元年 2019年	令和2年 2020年	令和3年 2021年	令和4年 2022年	令和5年 2023年
盛岡市	192,110人	191,247人	190,878人	190,693人	190,259人	189,616人
滝沢市	38,028人	38,262人	38,472人	38,673人	38,608人	38,649人
矢巾町	19,097人	19,279人	19,227人	19,149人	19,108人	19,033人
合計	249,235人	248,788人	248,577人	248,515人	247,975人	247,298人

資料：岩手県警察本部「岩手の免許人口」（各年12月末時点）

盛岡都市圏の自家用車保有台数は、令和2年（2020年）まで減少傾向でしたが、令和3年（2021年）以降僅かに増加傾向となっています。

世帯あたりの自動車保有台数は、盛岡市以外は県平均の1.4台/世帯を上回っています。

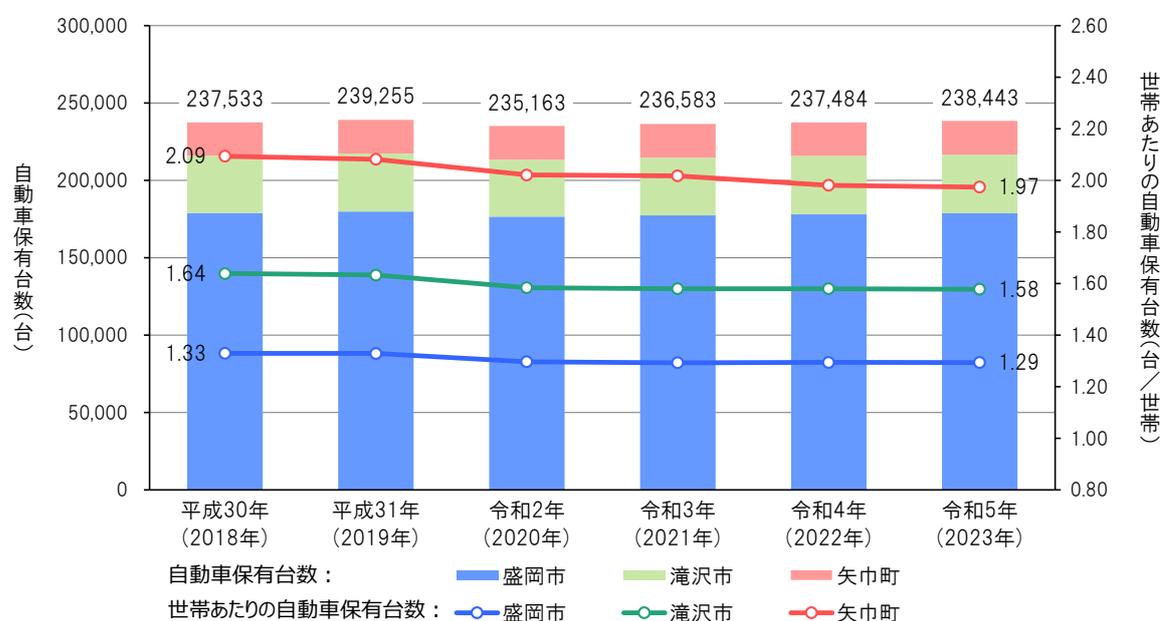


図 1-4 盛岡都市圏の自家用車保有状況

資料：「自動車保有台数」国土交通省東北運輸局「岩手県市町村別保有車両数」（各年3月31日時点）

「世帯数」各市町住民基本台帳（盛岡市及び矢巾町各年4月1日時点、滝沢市各年3月末時点）

②移動の傾向

■ 通勤通学流動

盛岡都市圏の通勤通学流動は、都市圏内の市町を跨ぐ移動が多くなっており、滝沢市では自市内で従業や通学する以上に、市外へ従業や通学しています。

盛岡都市圏での通勤通学手段をみると、公共交通利用は1割程度に対して、自家用車のみの利用が盛岡市では約6割で、滝沢市、矢巾町では約7割と多い状況となっています。また、盛岡市では自転車のみと徒歩のみも1割程度となっており、滝沢市、矢巾町よりも多い傾向にあります。

表 1-5 盛岡都市圏における通勤通学流動

市町名	自市区町村で 従業・通学	盛岡市で 従業・通学	滝沢市で 従業・通学	矢巾町で 従業・通学	その他市区町村 で従業・通学 (県内)
盛岡市	145,126 人	—	7,205 人	7,654 人	10,218 人
滝沢市	16,978 人	14,383 人	—	880 人	3,049 人
矢巾町	9,905 人	5,840 人	283 人	—	2,153 人
合計	172,009 人	20,223 人	7,488 人	8,534 人	15,420 人

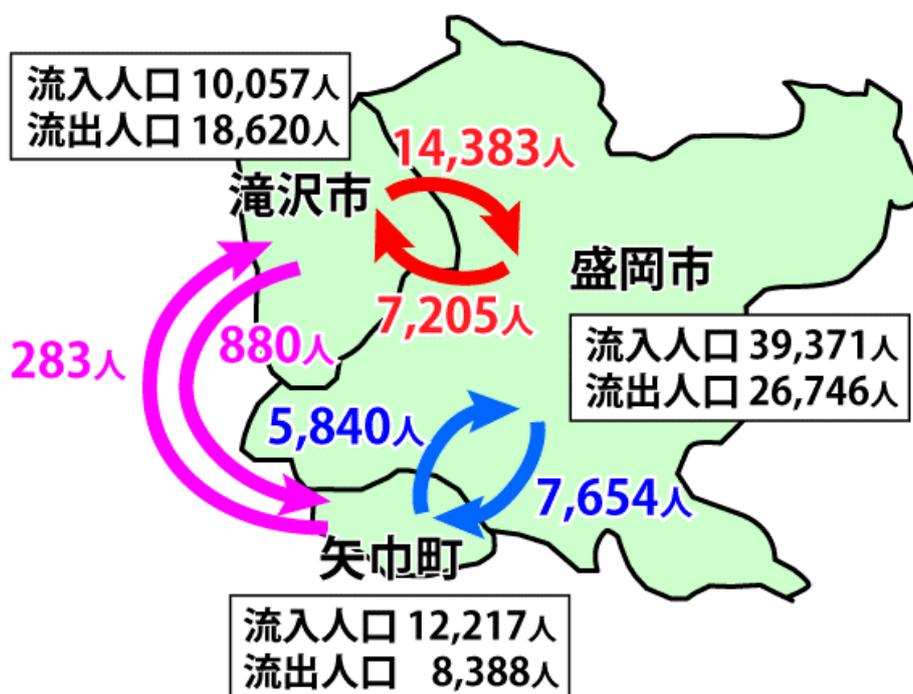


図 1-5 盛岡都市圏における通勤・通学流動

資料：総務省「国勢調査」(令和2年(2020年)10月1日時点)

表 1-6 盛岡都市圏における通勤通学手段

市町名	通勤者・通学者 総数	自家用車 のみ	オートバイ のみ	自転車 のみ	徒歩のみ	公共交通 利用	その他
盛岡市	145,528	82,958	850	16,590	16,014	14,755	14,361
滝沢市	29,628	21,246	130	1,552	1,916	2,471	2,313
矢巾町	14,958	10,431	49	1,056	1,244	1,415	763
合計	190,114	114,635	1,029	19,198	19,174	18,641	17,437

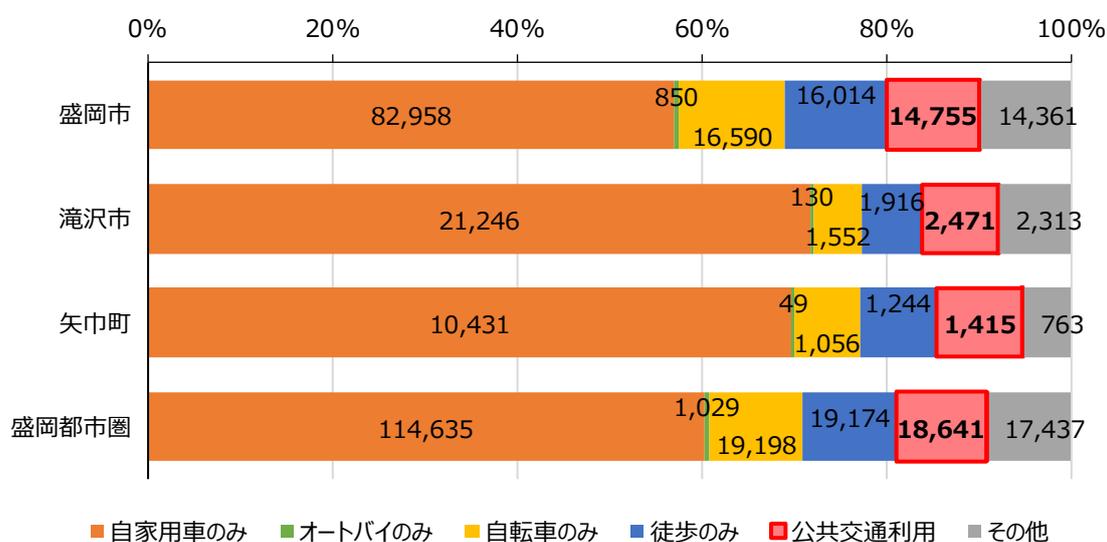


図 1-6 盛岡都市圏における通勤通学手段

資料：総務省「国勢調査」（令和2年（2020年）10月1日時点）

■ 日常生活の移動

人流ビックデータを用いて、日常の移動を分析しました。人流ビックデータの取得期間は次のとおりです。

表 1-7 人流ビックデータの取得期間

分類	データ取得期間	想定される移動
通常日	令和5年(2023年) 6月5日(月)～11日(日)	通常の平日・休日の移動
通常日(夏期)	令和5年(2023年) 7月23日(日)～29日(土)	夏休み期間中であり、主要な公共交通利用者がいない場合の移動
特定日 (イベント)	令和5年(2023年) 8月3日(木)～5日(土)	さんさ踊りにおける来訪者の移動
特定日(お盆)	令和5年(2023年) 8月10日(木)～15日(火)	長期休暇における帰省客・来訪者の移動

※人流ビックデータ

- データ取得範囲は岩手県全域とし、対象期間内に1回でも岩手県を訪問した方のなかで、ログを観測されたスマートフォンのデータ(株式会社プログウォッチャーのスマートフォンアプリによるGPSデータ「非集計ODデータ」)を取得し活用しました。
- 取得したデータ項目は、属性(居住地、勤務地、性別、年代)・OD・滞在時間・想定移動手段。
- 株式会社プログウォッチャーの提供するデータは、提携アプリをダウンロードしていて、かつ位置情報取得を許可したユーザーからのみ取得され、特定の個人が識別されないための加工を行なっています。

■ 平日 10～15 時台の目的地（盛岡市中心部、滝沢市南部、矢幅駅周辺）

通勤や通学を除く、平日の日中（10～15 時台）の移動では、盛岡市中心部を目的とする移動が多くなっています。また、大型商業施設、医療施設等の集客施設を目的地とした移動も多くなっています。盛岡市南部や矢巾町エリアでは、岩手医科大学附属病院へ移動が集中している状況が確認できます。

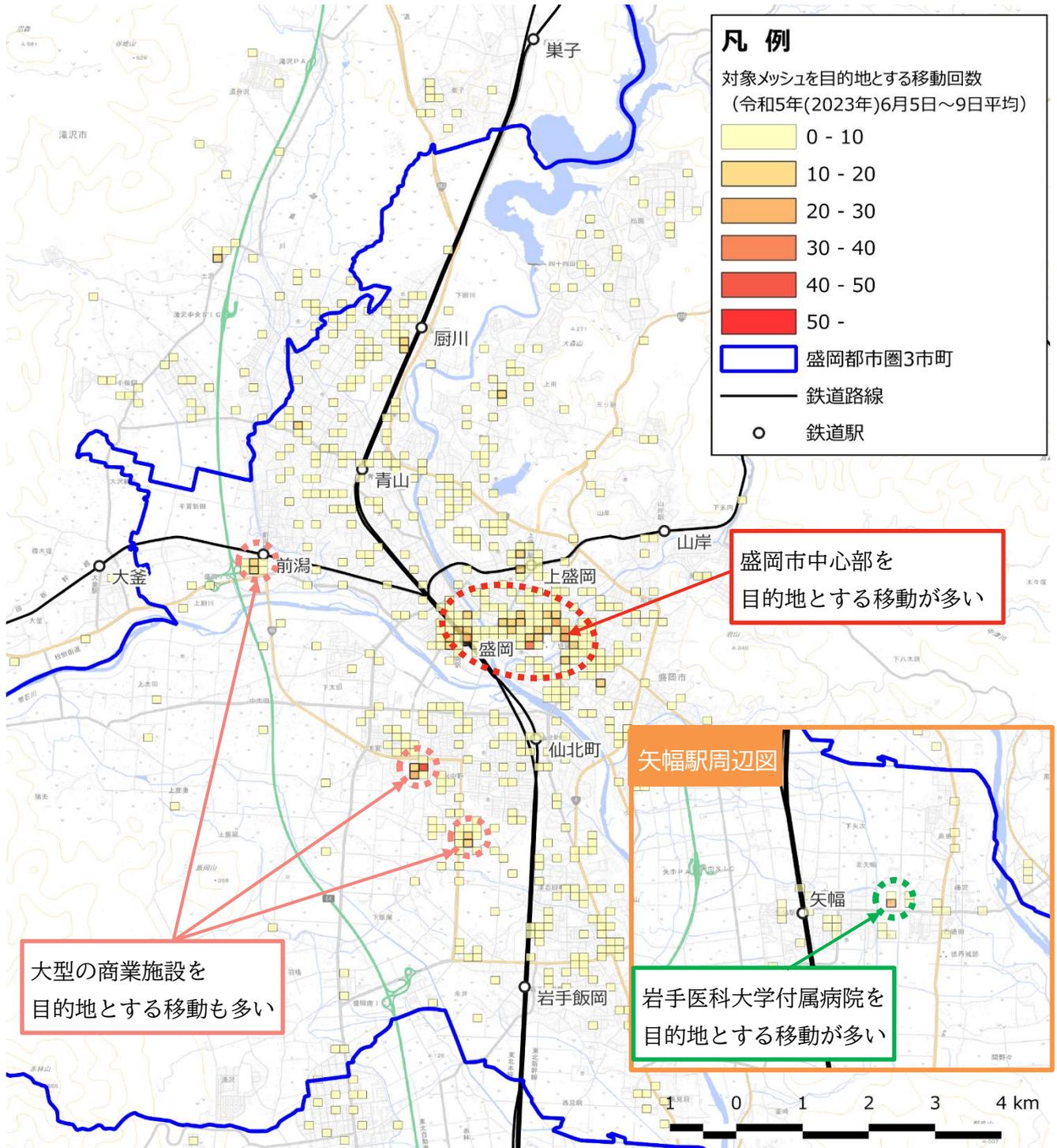


図 1-7 平日 10～15 時台の目的地（盛岡市中心部、滝沢市南部、矢幅駅周辺）

資料:「非集計ODデータ」(令和5年(2023年)6月5日～11日、業務・その他利用のみ抽出 N=26,799)

■ 平日 10～15 時台の目的地（盛岡市北部、滝沢市東部）

盛岡市北部や滝沢市東部エリアでは目立った目的地は少なく、玉山地域では商業施設等や滝沢市東部では岩手県立大学や盛岡大学への移動が僅かに発生しているのみとなっています。

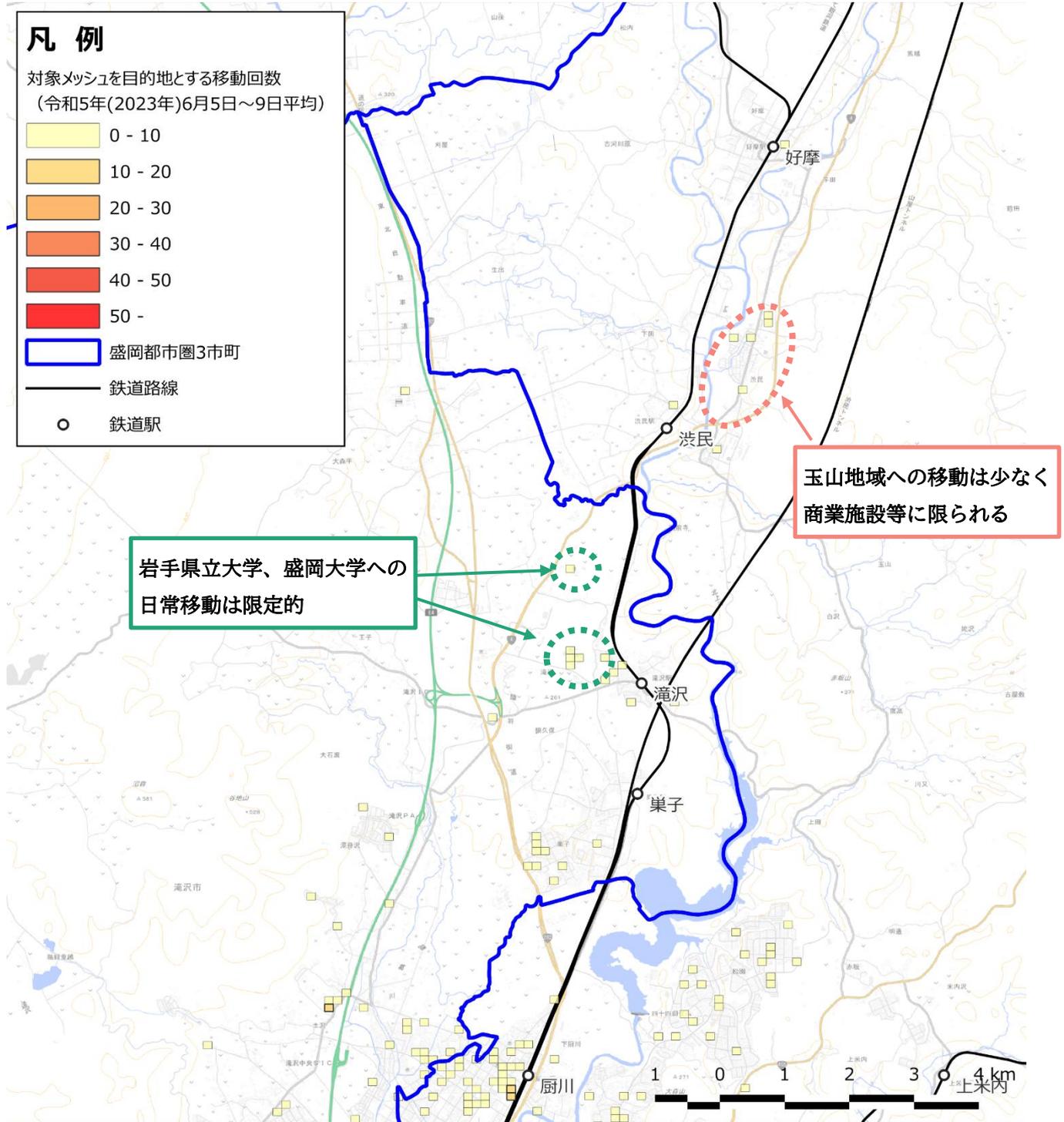


図 1-8 平日 10～15 時台の目的地（盛岡市北部、滝沢市東部）

資料:「非集計ODデータ」(令和5年(2023年)6月5日～11日、業務・その他利用のみ抽出 N=26,799)

■ 休日 10～15 時台の目的地（盛岡市中心部、滝沢市南部）

休日の日中（10～15 時台）の移動では、平日と比べて、目的地となっている地点が多く存在しており、広く移動しています。特に、郊外に目的地が分散している傾向にあります。

盛岡市中心部については、平日の方が通院や業務を目的として内丸地区等の広い範囲に集客していますが、休日は大通周辺に多く移動しています。

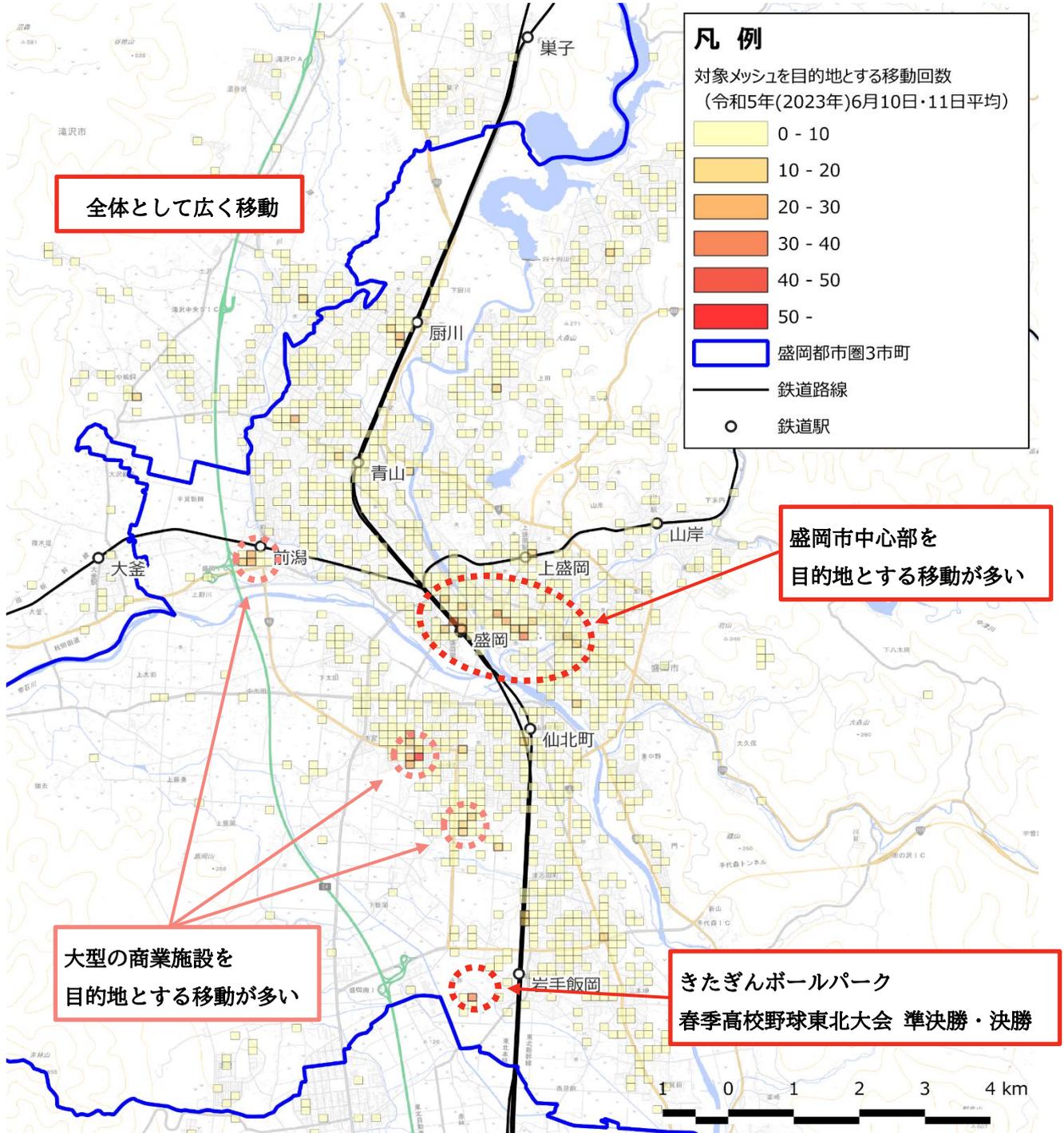


図 1-9 休日 10～15 時台の目的地（盛岡市中心部、滝沢市南部）

資料:「非集計ODデータ」(令和5年(2023年)6月5日～11日、業務・その他利用のみ抽出 N=11,500)

■ 平日 19～21 時台の目的地（盛岡市中心部、滝沢市南部）

平日の夜間（19～21 時台）の移動では、平日の日中と比べて、盛岡中心部（大通周辺）への移動が集中する傾向にあります。夜間の遅い時間帯についても、盛岡中心部（大通周辺）から郊外へ帰宅する需要が一定程度あるものと予想されます。

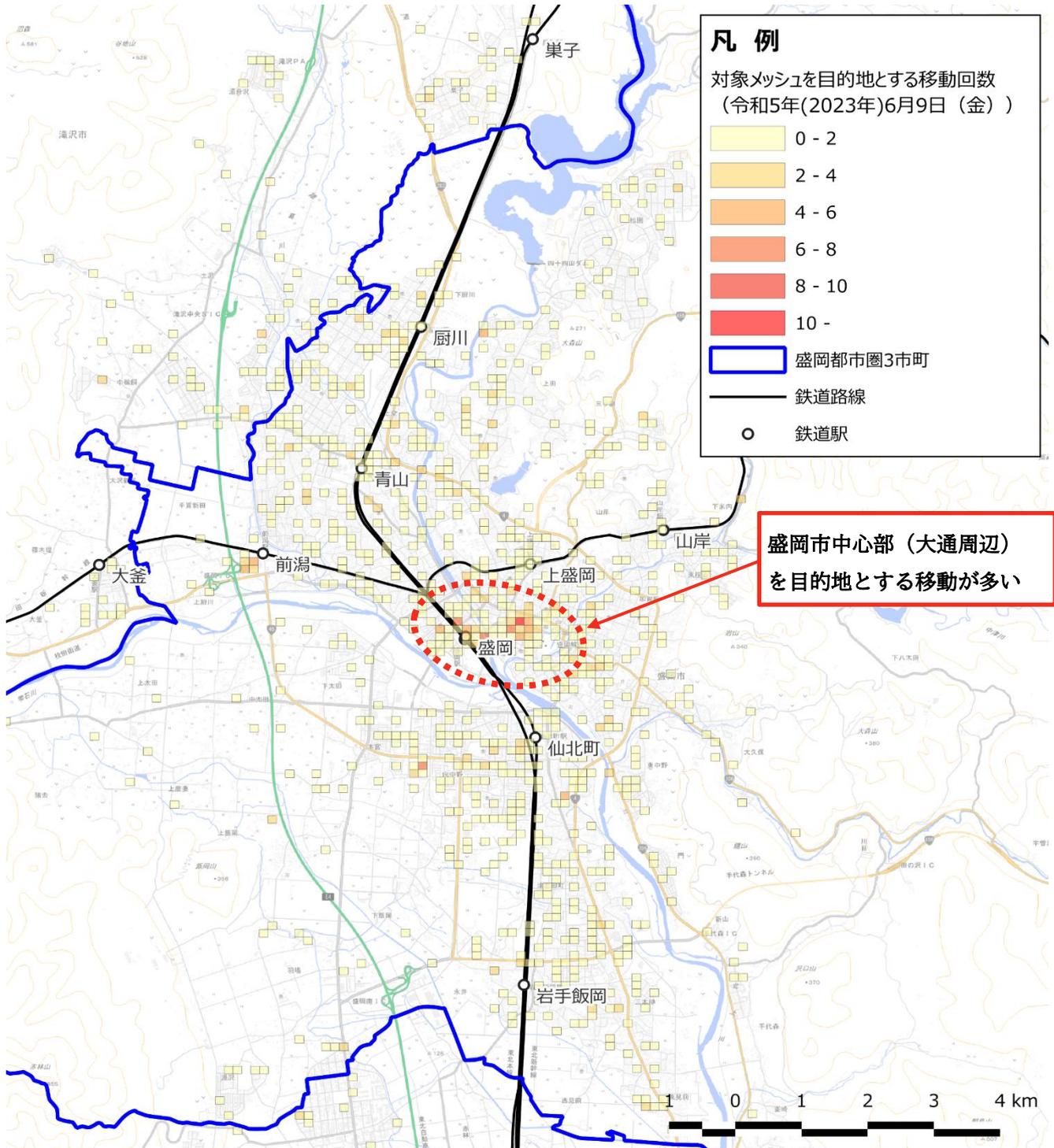


図 1-10 平日 19～21 時台の目的地（盛岡市中心部、滝沢市南部）

資料:「非集計ODデータ」(令和5年(2023年)6月5日～11日、業務・その他利用のみ抽出 N=1,533)

■ 観光客の移動

日常の移動と同じく、人流ビックデータを用いて、観光客の移動について分析を行いました。

観光客による移動のうち、さんさ踊り開催日の移動については、早い時間から盛岡市中心部に移動している傾向にあります。開催中はさんさ踊りの会場に目的地が集中しています。

さんさ踊り翌日の移動については、盛岡市中心部やその周辺に分散していることに加え、盛岡駅周辺が目的地となっています。さらに、宿泊後に特定の観光地を巡る傾向は少なくなっています。

よって、翌日は盛岡市中心部やその周辺へ移動するのみであり、宿泊者はすぐに次の滞在地へ移動している、もしくは帰宅していると予想されます。

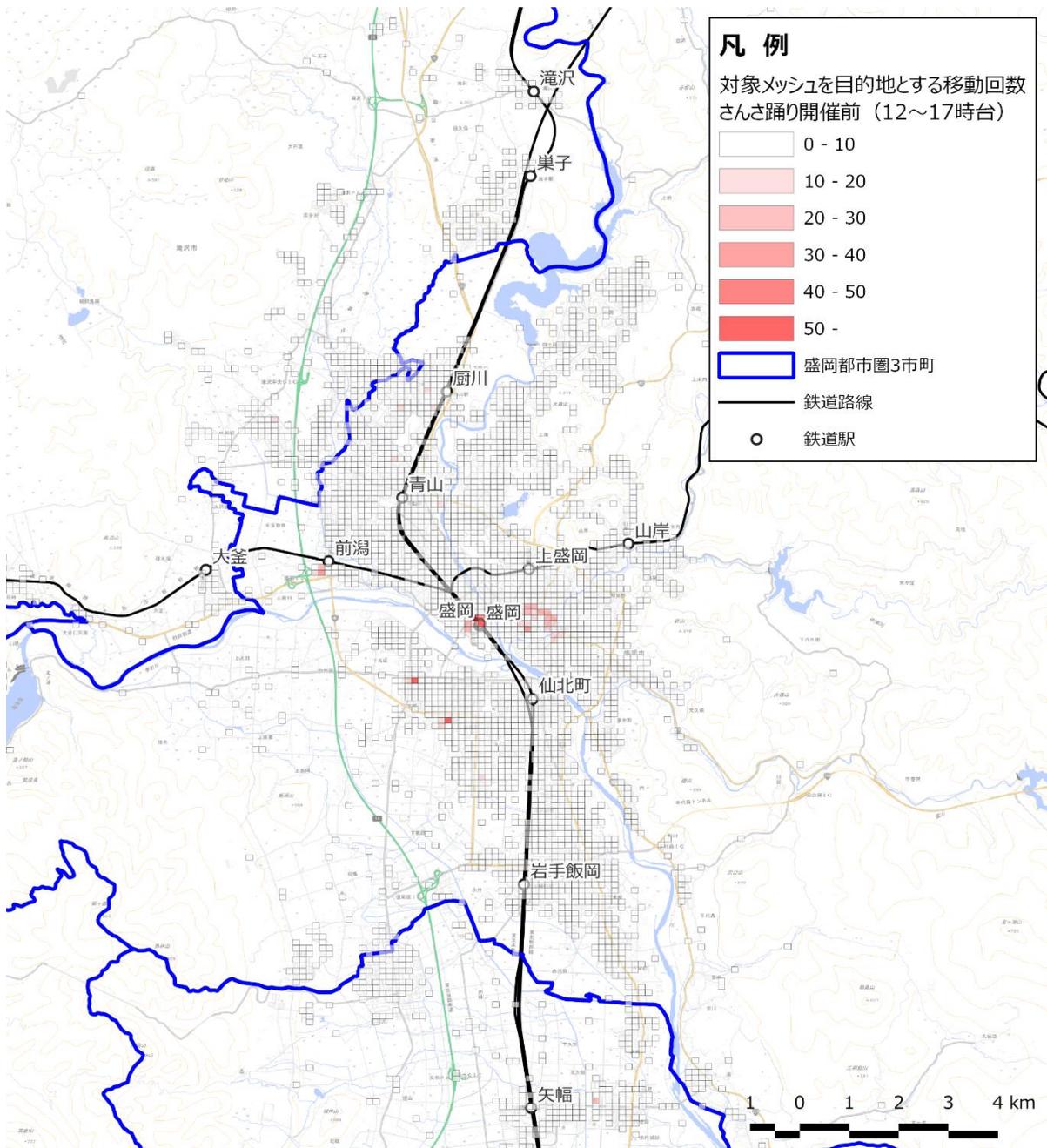


図 1-11 さんさ踊り開催前 12～17 時台の目的地（盛岡市中心部、滝沢市南部）

資料：「非集計ODデータ」（令和5年（2023年）8月4日、観光利用のみ抽出）

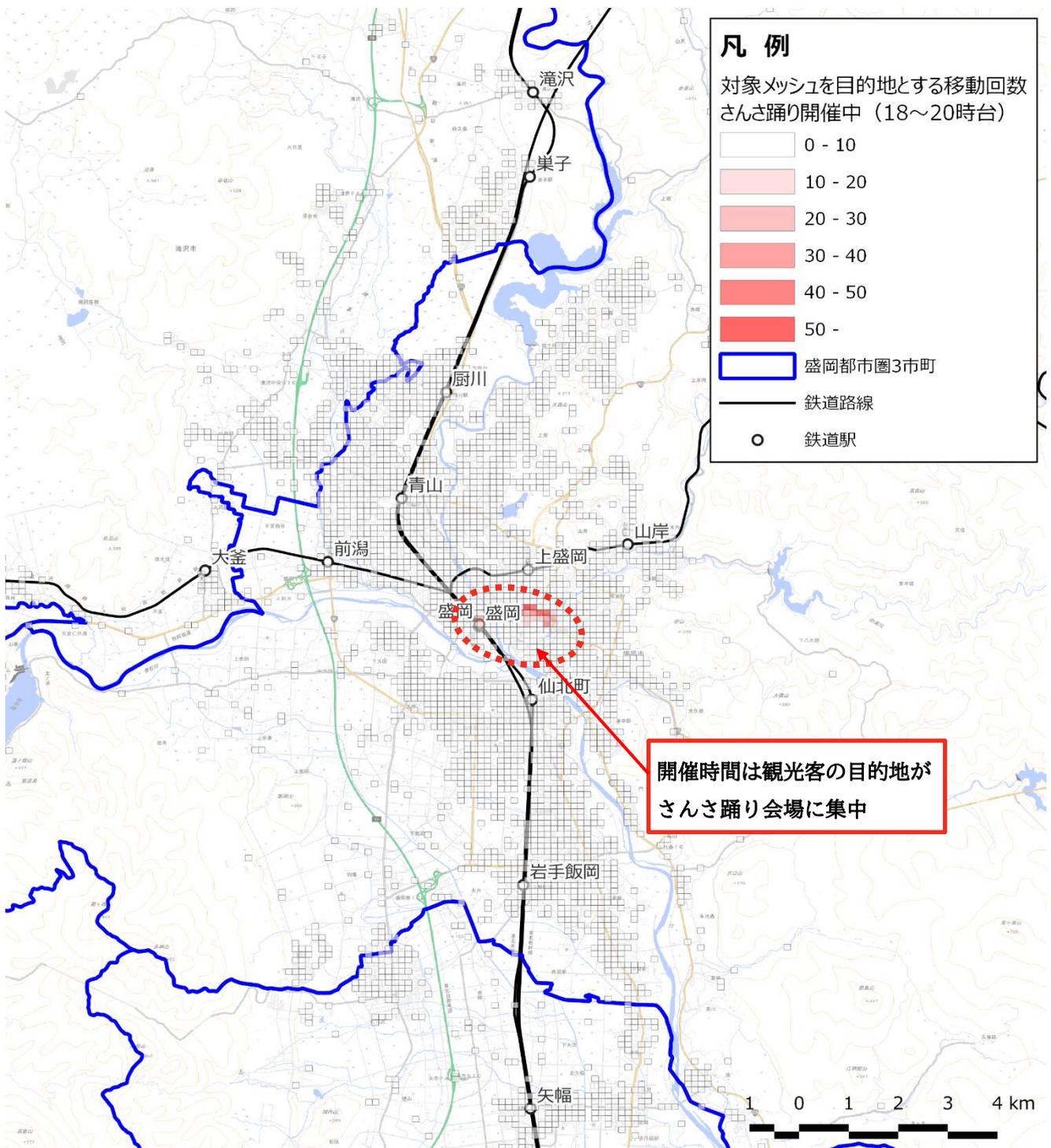
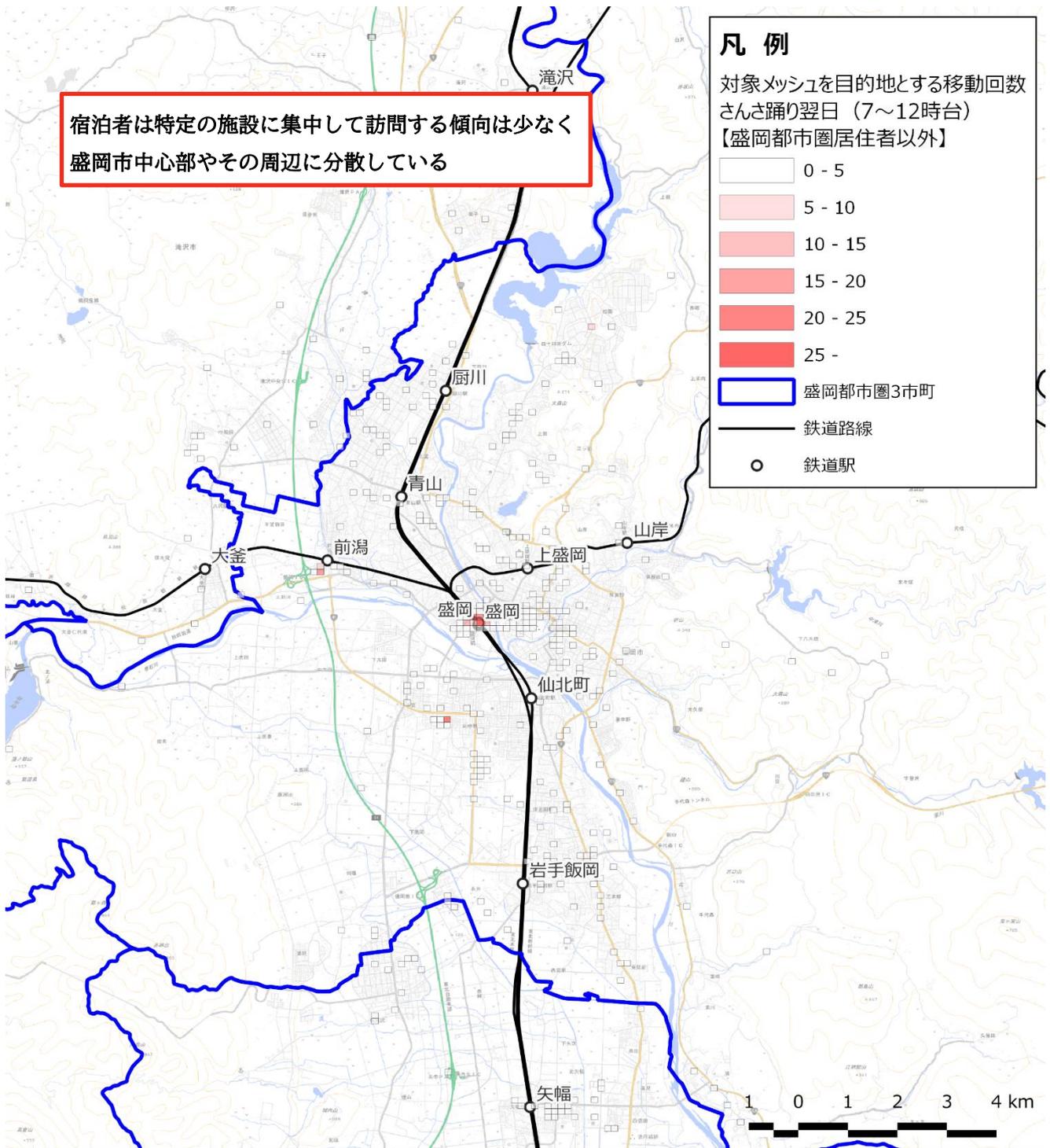


図 1-12 さんさ踊り開催中 18～20 時台の目的地（盛岡市中心部、滝沢市南部）
資料：「非集計ODデータ」（令和 5 年（2023 年）8 月 4 日、観光利用のみ抽出）



宿泊者は特定の施設に集中して訪問する傾向は少なく
 盛岡市中心部やその周辺に分散している

図 1-13 さんさ踊り翌日 7～12 時台の目的地（盛岡市中心部、滝沢市南部）
 資料：「非集計ODデータ」（令和5年（2023年）8月5日、観光利用のみ抽出）

■ 乗り換え需要

取得した人流ビックデータから、乗り換え需要について集計を行いました。なお、乗り換え需要は、下図に示すとおり、交通結節点以外の地区から鉄道駅やバスターミナル等のトリップ数を計上したものです。

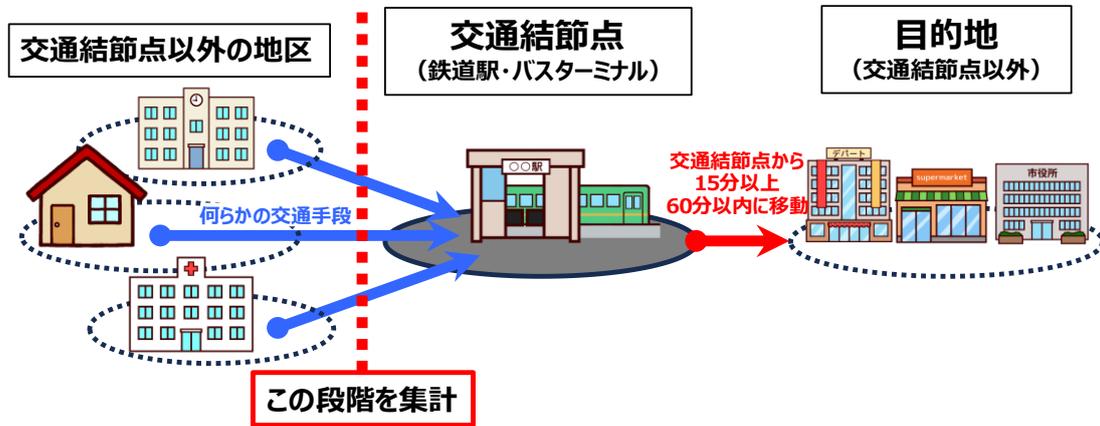


図 1-14 乗り換え需要算出の定義

※「交通結節点から15分以上60分以内に移動」について、使用している「非集計ODデータ」は、スマートフォンによるGPS位置情報を取得しており、データの取得間隔により「滞在」と判定されるのは15分以上となる。また、地域連携ICカード「iGUCA」の乗り継ぎ割引適用が降車後60分以内であり、60分以上滞在する場合は、交通結節点周辺に目的地があると想定されるため。

交通結節点である鉄道駅やバスターミナルの乗り換え需要は、盛岡駅が突出しており、令和5年(2023年)6月5日から11日までの1週間で962回計測されています。

その他の交通結節点では、仙北町駅、岩手飯岡駅、矢幅駅、青山駅、盛岡バスセンターが比較的多い地点となっています。

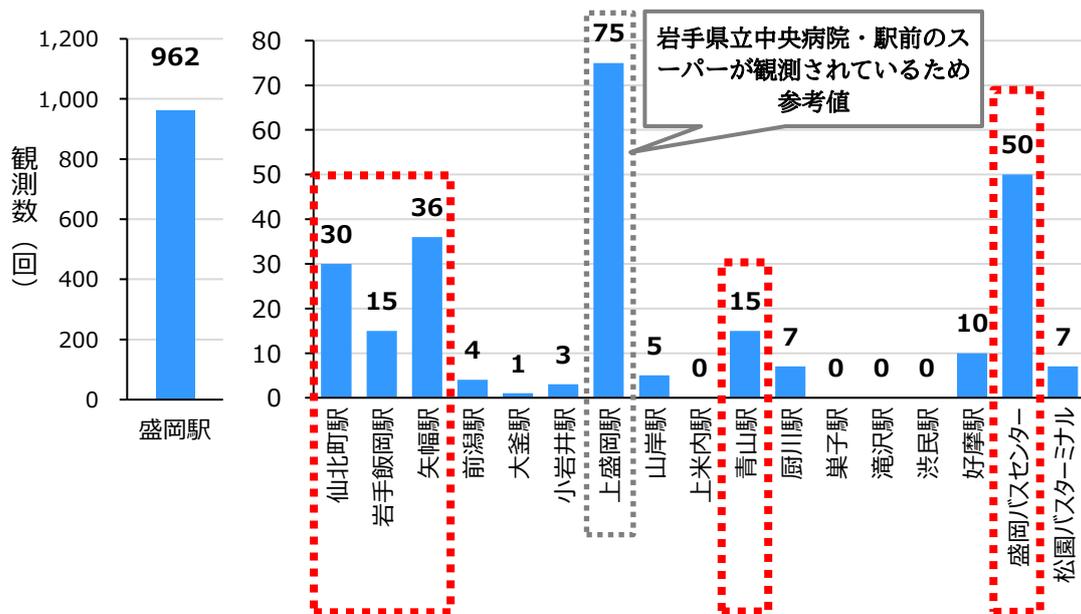


図 1-15 鉄道駅・バスターミナルの乗り換え需要

資料：「非集計ODデータ」(令和5年(2023年)6月5日~11日、
鉄道駅・バスターミナルを經由地とした移動数 N=1,220 を抽出)

乗り換え前の出発地を次のとおり整理しました。

鉄道駅やバスターミナルを経由し、目的地へ移動する傾向が多い箇所をみると、盛岡駅のほか、仙北町駅、岩手飯岡駅、矢幅駅、青山駅、盛岡バスセンターでその傾向が多くなっています。

例えば矢幅駅では、矢巾東部地区を出発し、矢幅駅を経由して目的地へ向かう傾向が多く、矢巾町の結節点として利用されています。

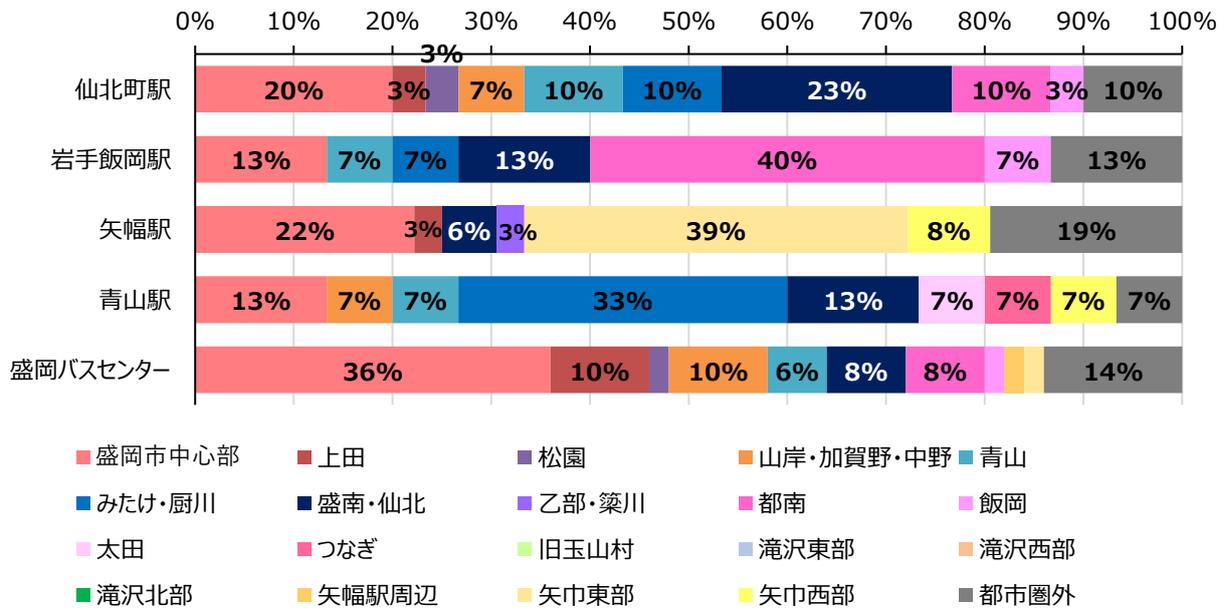


図 1-16 鉄道駅・バスターミナルでの乗り換え前の出発地

資料：「非集計ODデータ」（令和5年（2023年）6月5日～11日、仙北町駅 N=30、岩手飯岡駅 N=15、矢幅駅 N=36、青山駅 N=15、盛岡バスセンター N=50 を抽出）